

科目名 アクアバイオ学特別総合実験（10単位）

担当者氏名 白井 滋、塩本 明弘、渡邊 研一、小林 万里、千葉 晋、瀬川 進

◆学習・教育目標

修士論文沙癖のプロセスを通して、論理的思考能力、分析能力、コミュニケーション能力などを身につけさせる。具体的には、研究テーマを選択するに至った背景と研究目的の設定、実験計画、研究目的を達成するための実験および調査手法の習得、データの集積と統計解析、結果から得られる結論および考察などについて段階を踏んで指導する。研究成果は、学会等で発表させ、学術論文の書き方に則って修士論文を作成させる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

| 回数 | テ ー マ | 内 容  | 授業のねらいまたは準備しておく事項 |
|----|-------|--|-------------------|
|    |       | <p>（白井 滋）<br/>形態学とともに分子生物学的な手法を用いて、魚類、貝類、甲殻類などの水圏動物の分類、集団解析、系統地理および系統発生に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>（塩本 明弘）<br/>植物プランクトンによって支えられている水圏の基礎生産に注目し、オホーツク海における豊かな水産資源を支えるメカニズム、さらに地球温暖化による水圏環境への影響についての研究指導を行う。</p> <p>（渡邊 研一）<br/>魚病学分野から見たオホーツク海域は、我が国でもっともクリーンな海域である。一方、病魔は周辺海域を蝕みつつあることから、当海域の各種魚病に関するリスク評価とそのマネジメントについての研究指導を行う。</p> <p>（小林 万里）<br/>海の高次兼捕食者である海生哺乳類の基本的な生態を理解した上で、様々な手法（分子生物学、形態学、組織学）を通してアザラシに関わる新しい知見や新しい研究手法の解明に関する研究指導を行う。</p> <p>（千葉 晋）<br/>重要な沿岸生態系である藻場、岩礁潮間帯、干潟に生息するベントスを対象としながら、持続可能な漁業生産を得ることを主目的とした課題を設定し、生態学的アプローチから解明、解決に繋がる研究指導を行う。</p> <p>（瀬川 進）<br/>海洋の生態系のなかで底生動物や遊泳動物として重要な位置を占めている無脊椎動物に着目し、オホーツク海の適応しているこれらの動物の生活史及びその繁殖戦略についての研究指導を行う。</p> |                   |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

\_\_\_\_\_

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

\_\_\_\_\_

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

\_\_\_\_\_

◆その他受講上の注意事項

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_